

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームコスモス
所在地	宇和島市三間町黒川385-1
自己評価作成日	平成22年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との密着を進め利用者自身も積極的に交流を深めて行くことをアピールしたい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>この一年間「認知症のことを地域の方に知ってもらうための取り組み」をすすめておられ、小学4年生の子ども達の訪問があり、利用者で交流した後に、管理者が、認知症について説明をされた。後日、小学校の運動会に招待していただき、利用者も競技に参加して楽しまれた。管理者は、自治会にも参加して「地域とのコミュニケーションがとれるようになってきた」と実感されていた。事業所の芋炊き会時には、地域の方やご家族も招いて行われた。</p> <p>以前は、2ヵ月に1回の運営推進会議について「議題に悩んでいたが、事業所で活動をすれば報告ができ、報告をすれば、それについての意見がいただける」ことが分かり、多く報告ができるよう事業所の活動に取り組んでおられる。会議の開催時間は、地域の方のご都合等に合わせて夜間に開催しておられ、市役所からは課長が参加してくださっている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホームコスモス

(ユニット名)

こでまり・コスモス(2ユニット共通)

記入者(管理者)

氏名

秋本コマ子

評価完了日

平成22年10月10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			日頃から事業所の理念の意義については全員で共有し実践に繋げている。	
			(外部評価)	
			職員の考えを出し合って「地域の人達へ感謝の挨拶 仲間同士の力強い挨拶 利用者への優しく見守りの挨拶 家族の皆さんへ絆の挨拶 本音の挨拶でその人らしい生活を続けましょう」と理念を作成して、玄関や事務所に掲げておられた。職員は、個々へ声かける際に、理念を思い出し、実践に努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			事業所自体が地域の一員であるとの意識を持ち続け自治会の行事にも積極的に参加して交流を深めている。	
			(外部評価)	
			この一年間「認知症のことを地域の方に知ってもらうための取り組み」をすすめておられ、小学4年生の子ども達の訪問があり、利用者で交流した後に、管理者が、認知症について説明をされた。後日、小学校の運動会に招待していただき、利用者も競技に参加して楽しまれた。管理者は、自治会にも参加して「地域とのコミュニケーションがとれるようになってきた」と実感されていた。事業所の芋炊き会時には、地域の方やご家族も招いて行われた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			昨年、地域の人たちに認知症とは？と問いかけ、それに応えて自治会で高齢者の中で認知症らしき方の把握に協力していただく取り組みが展開されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上にいかしている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議において利用者の状況やサービスの内容 について意見交換をしながらサービス向上を目指して いるが医療行為など法律の壁にぶつかり解決が困難な 状況も多々見受けられるのが現状です。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>以前は、2ヵ月に1回の運営推進会議について「議題 に悩んでいたが、事業所で活動をすれば報告ができ、 報告をすれば、それについての意見がいただける」こ とが分かり、多く報告ができるよう事業所の活動に取 り組んでおられる。会議の開催時間は、地域の方のご 都合等に合わせて夜間に開催しておられ、市役所から は課長が参加してくださっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>疑問点や理解困難な場合、積極的に市の担当者を訪ね て相談を重ねている。(協力関係は構築していま す。)</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>介護保険制度の解釈について質問等があれば、管理者 は、市の窓口に出かけて聞くようにされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束の基準は心得ているので玄関の施錠を含めて 身体拘束は一切行っていない。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者には、個々に「柿をとりに帰らんといけん」 「ご飯を作らんといけん」等、理由があって出かけよ うとされることを理解して、職員は、利用者につき添 うようにされている。運営推進会議で、利用者の衣類 に「事業所のマークを付けてはどうか」と提案があ り、ご家族と検討してからの取り組みとされていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に含まれるような言葉のトーンも含めてお互いに気をつけるよう防止に気をつけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や職員は十分に制度を理解しているが、視力や聴力が低下している利用者には対応が出来ないので活用できなく苦慮している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	(自己評価) 利用者との契約や解約の時点では十分に説明を行い納得を得ているので問題はない。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱や面会時を利用して、意見の収集を図っているがお世話になっているとの気持ちが先立ち、ほとんど意見が出ないのが現状である。 (外部評価) 行事や運営推進会議時に参加いただけのご家族は、現在、少なく、ご家族も「任せます」と言われることが多くて、ご家族の声を聞くことが難しいようだ。今後、増築した別館「かすみ棟」で、利用者がご家族を接待する喫茶店・バザーを行うことを計画されており、ご家族に案内をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月(1日)職員会議において、職員の意見や、提案を聞き常に反映させている。	
			(外部評価) 管理者は、職員に「外部研修を受けてレベルアップしてほしい」と、受講を奨励されている。毎月の職員会議や、慰労会・忘年会等、職員が集まったり親睦する機会も積極的に作っておられ、チームワークを育てたり、話し合う機会を作っておられる。受け入れが難しそうの方もあったが、管理者は、実際にケアする職員の意見を聞いてみられ、職員が受け入れることを決めて入居に至った利用者もいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、職員個々の勤務状況の把握を常に行っている。勤務状況や、資格の内容によって報酬の見直しも検討中である。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は仕事に支障がない範囲で参加し、知識や技術を身につけるよう配慮している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 特に地域内の事業所とは、お互い連絡を取り合って問題点の解決につなげている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず、信頼関係が必要との理念に基づいて、意見や要望を徹底的に聞き、安心させている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との信頼関係は、毎月送付する家族便りを通して利用者の日常生活について細かく報告している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 意見箱や面会時を利用して、意見の収集を図っているがお世話になっているとの気持ちが先立ち、ほとんど意見が出ない	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に利用者の立場に立ち、何を求め何が出来るのか個々に話し合う時間を設け、暮らしを共有する者同士の関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常生活の場は別々でも、利用者にとって家族は大切な存在である事を両者が理解し、絆を大切にしつづけるよう支援して行く。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所当初、交流のあった友人等への連絡を促して関係が途切れないよう支援を続けているが年を重ねる毎に精神的な疲れが出るのかあまり求めなくなった。	
			(外部評価) 心の拠り所としていた親せきの店が故郷にあり、職員と一緒に行くことを楽しみにされている利用者がある。お若い頃に縫物をされていたことをご家族から教えてもらい、事業所で布を用意されると、眺めたり触ったりしながら、とてもうれしそうな表情をされたようだ。歌を覚えておられる方が多く、職員が口ずさんでいると、利用者も一緒に歌い出すようになったこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	以前から利用者同士が関わりながら支えあう環境づくりに努めているが孤独を好む利用者がおられて支援の方法に苦慮している。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	契約終了後も相談があれば直ちに対応している。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	常に利用者は主人公であるとの立場に立って暮らし方の希望や意向の把握に努めている。
			(外部評価)	
管理者やケアマネージャーは、利用者のことをよく知っておられるだろうが、さらに利用者が何を求めているのが正しく知るための分析や確認のためにもアセスメント様式を職員全員で活用して、情報の共有に努めていかれてほしい。				
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	契約時点で把握している。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	特に異状が認められたときはその利用者の生活実態を細かく記録し定例会で提起して問題解決のため検討する。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>ケアプランは家族便りに同封し家族の意見を求めている。本人や必要な関係者の意見は定例会を利用して話し合いを行い介護計画に活かしている。</p>
			(外部評価)	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	<p>個々の記録については日常生活にあまり変化のない利用者を除き細かく記録して情報を職員間で共有し実践に活かしている。</p>
			(外部評価)	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>どのようなサービスが適応するか家族との情報も活かして柔軟な方法を取り入れるよう心掛けている。</p>
			(外部評価)	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	<p>地域資源となる場所、人、環境などを模索し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができる地域資源が提供出来るよう努めている。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望でかかりつけ医から近隣の協力医に ほとんどが変更している。病状の内容によって専門医 の受診を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 入居時、かかりつけ医について話し合われており、こ れまでのかかりつけ医に継続して通院されている方も おられるが、現在は、ほとんどの利用者が協力医に変 更されている。協力医は、利用者の状態を連絡する と、薬持参で、往診して下さる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう 看護職員を適切に配置し介護職員との連携を密接にし ている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入退院の場合管理者は直ちに駆けつけ病院関 係者との情報交換を行いその後の対応について検討し ている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期を迎えた利用者の家族とは密接な連絡を行い方 針を共有している。	
			(外部評価) 医療との連携が十分に取れないこともあり、利用者の 病状が急変したような場合には、救急車を呼ぶことに されており、ご家族に説明し、同意を得ておられる。 「入院せず、事業所ホームで看取りをしてほしい」と 利用者やご家族から希望があったような場合、事業所 で応じることはできないだろうか。医療との連携や事 業所の体制、ご家族の理解や協力等、話し合いなが ら、最期まで利用者を支えていくような支援について 考えてみてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) これまでの意見交換の中で全職員は訓練も含め習得している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害 特に 火災災害に対する事業所単独の対応については勤務者の少ない夜間時を設定して毎月避難訓練を行っているしかし地域との共同訓練については検討中。	地域の状況等を踏まえた事業所独自の「非常災害時マニュアル」を作成することを考えておられた。さらに、近隣の方への協力依頼が難しいため、地区の消防団長に連絡が取れるようにしておくことを予定されている。事業所内での自主防災をさらにすすめ、又、協力してくださりそうな方等を探す等、利用者・職員の安心・安全に向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 夜勤の時間帯に、避難訓練を毎月実施されている。事業所の近くに住む職員もあり、4～5分で駆け付けることが可能ではあるが、事業所の近くに人家が少なく、又、地区自体も高齢化しており、地域の協力が得られにくい現状にある。事業所は敷地内に別館を造り、利用者の避難場所を確保されたり、スロープやスプリンクラーを設置しておられた。家具を固定したり、ヘルメットや備蓄の米を確保されているが、いざという時に「利用者を助け出せるかは、まだまだ不安なこともある」と感じておられる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者や介護者は対等で平等であるとの方針に基づいて一人ひとりの人格を常に尊重し誇りやプライバシーを傷着けないよう気をつけている。	
			(外部評価) 利用者個々のプライバシーに配慮して、事業所が発行する「家族便り」は、利用者個々の担当職員が個別に作成されており、ご本人の写真と近況報告を行っておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者には常に声かけをし、出来るだけ抵抗なく希望がだせて自己決定も出来るような環境づくりを心掛けている。又自己決定が困難な利用者には家族と連携をして自己の気持を引き出せるような取り組みを続けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 決まりは常に一人ひとりの利用者を想定しながら決めるようにしているので支援内容もその人に適した介護を実践している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) まづ利用者の身だしなみやオシャレのセンス向上に向けて支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介護度が上がり職員と一緒に食事の準備や後片付けが出来る利用者はごく僅かになった。ただ18名の利用者全ての好みに合致することは物理的にとても不可能である。少々高価でも多くの利用者が好むものがあれば出来るだけ取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 職員が交代で献立を考えるようにされている。職員は、利用者と一緒に同じものを食べながら、利用者に目配りして食事中、手を止めた利用者に「これ軟らかくておいしいよ」と、すすめておられた。嚥下機能が落ちて来ている方にも、同じように盛り付けて、食べる際に、職員が隣りで「今日は、カンパチよ」と、魚の身をほぐしておられたり、飲み物にトミを付けて飲み込みやすいようにされていた。寝たきり状態で入居された方もいるが、起きる練習から始めて、現在は、食堂で、ご自分で食事を食べておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ全栄養素が含まれるよう献立を考えているが地域での頂物などがある場合栄養的に偏ることがある。水分量については拒否する利用者には説得を繰り返しながら確保できるよう心掛けている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 昨年に引き続き口腔内の清潔や咀嚼が如何に健康な身体に必要な利用者に理解していただき毎食後の歯磨きや必要な口腔ケアを実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけ「おむつを外す」をスローガンに掲げ排泄のパターン、習慣、を把握しながら自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 昼間は、全員トイレで排泄できるよう支援されている。時間をみて誘導の必要な方や、ご本人の希望もあり、念のためおむつを使っている方がおられる。夜間、起きて来られる方はトイレに誘導されたり、おむつを使用してゆっくり安心して休んでいただく方もおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘は摂取する栄養と運動によって予防出来る事を心がけ具体的には個々に応じたケアプランによって取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴については様々な希望を訴える利用者もあるが全体を公平に個々に応じた支援をしている。	
			(外部評価) 夏は2日に1回・冬は3日に1回、入浴できるように支援されている。入浴したくない理由を言われる方には「お出かけの前にはきれいにしとかないとね」等、その方に応じた誘い方をされている。入浴日に、利用者が入浴を嫌がるようなこともあるが、職員の体制等のこともあり、できるだけその日に入浴してもらうようにされている。浴槽の出入り等、利用者の状態によって職員2名で介助をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入所当時環境に慣れなく(特に夜間)叫んでいた利用者に対して原因を探り目線に立って対応した結果ほとんどの人は安心して良く眠れるようになった。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬は全て医師の指示に従って行っている。症状が変化すれば当然医師の指示を仰ぎ支援をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の会話の中から一人ひとりの趣味や生甲斐を見出し気分転換などの支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの気持ちを尊重し希望に沿って戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
			(外部評価) 近くのJAに買い物に出かけたり、散歩されたり、コスモスを見に行ったりして外出をされている。かまぼこ板展覧会には、毎年全員で作った作品を出展されており、数人ずつ見に行くのが恒例となっている。車いすの方も歩ける方も、同じように外出できるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人2000円を事務所で預かり外出の折、本人に渡して自由に使えるように計らっている。今年は金銭について管理可能と判断できた利用者には家族と相談しながら管理を託している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 具体的には本人の要望があれば手紙の手伝いや電話の取次ぎをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間の利用については昨年同様、衛生面での管理に気をつけながら廊下や玄関の掲示物、休憩室などには季節の花や人形などを飾って居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
			(外部評価) 周囲を山に囲まれた静かな場所に建つグループホームで、調査訪問時には、窓から紅葉が眺められた。玄関には、利用者の習字やかまぼこ板の作品等が飾られている。食堂のとなりには段差なく畳の部屋があり、ソファでくつろいでおられる利用者もおられた。廊下の突き当たりには椅子が置いてあった。	
53		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昨年と同様 食堂のテーブル テレビ室のソファその他ベンチや椅子などを配置して利用者個々の意向に合わせた居場所の充実を図っている。	
			(外部評価) 居室はベッドとタンスは備え付けとなっているが、各ユニット2名の居室は畳の間になっている。各居室、利用者がぬり絵を塗った大きいカレンダーがかかっていた。仏壇、衣装ケース、洋服掛け、ぬいぐるみ、家族写真等を持ち込んでいる方もあった。「ご本人の自己決定を大切に」しつらえておられ、持ち込んでおられるものの多い方や少ない方等、さまざまであった。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 常設の物はベッドとタンスのみでその他は好みの物や馴染みのものなど自由に使っている。	
			(外部評価) 居室はベッドとタンスは備え付けとなっているが、各ユニット2名の居室は畳の間になっている。各居室、利用者がぬり絵を塗った大きいカレンダーがかかっていた。仏壇、衣装ケース、洋服掛け、ぬいぐるみ、家族写真等を持ち込んでいる方もあった。「ご本人の自己決定を大切に」しつらえておられ、持ち込んでおられるものの多い方や少ない方等、さまざまであった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして安全かつ出来るだけ自立した生活が遅れるように工夫している。	(自己評価) 利用者一人ひとりの能力をしっかりと把握してそれぞれに合わせた安全で自立した生活が送れるように工夫している。	